

平成22年2月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年3月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,070億円余
2. 前年同月比	-6.5% (店舗数調整後/24か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-5.1%(86.0%) : 非店頭-14.4%(14.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年1月対比±0店)
5. 総店舗面積	946,123㎡ (前年同月比:-4.0%)
6. 総従業員数	20,272人 (前年同月比:+7.9%)
7. 3か月移動平均値	7-9月 -11.6%、8-10月 -11.4%、9-11月 -11.9%、 10-12月 -9.9%、11-1月 -8.2%、12-2月 -6.5%

[参考] 平成21年2月の売上高増減率は-11.7% (店舗数調整後)

【2月売上の特徴】

- (1) 2月の東京地区は、降雪など天候不順や冬季オリンピックで入店客数の減少が懸念されたが、各店の催事など集客施策が奏功し、結果的には前年を超える店が多くあった。
- (2) 高額商材については高級時計や海外特選ブランドなどを中心に堅調に推移したが、その背景には、改装による新ブランドの投入効果や外国人観光客需要の増大などがある。
- (3) ファッション商材の動向を細かく見ると、衣料品は店により好不調のばらつきがあるが、婦人靴や婦人アクセサリーなど服飾雑貨は共通してほぼ前年並みの結果であった。
- (4) 今年のバレンタイン商戦は、義理チョコは苦戦したものの、友人・家族・自分向けのパーソナルギフト需要が盛り上がり、東京地区全体では前年を超える結果となった。
- (5) 都内各店の3月の商況については、第2週までの途中経過では、前年実績をクリアしている店が過半を占めている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 27.9日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 4店、②変化なし: 4店、③減少した: 12店、④不明: 2店
- (3) 2月歳時記 (バレンタインデー、節分、立春) の売上 (同上)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 10店、③減少した: 3店、④不明: 7店
- (4) 翌月上見通し (回答店舗数で見ると傾向値)
 - ①増加する: 2店、②変化なし: 9店、③減少する: 9店、④不明: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年02月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	107,078,317	100.0	-6.5 (-7.7)
紳士服・洋品	6,953,008	6.5	-7.8 (-8.8)
婦人服・洋品	20,544,580	19.2	-9.4 (-10.7)
子供服・洋品	2,701,540	2.5	-5.3 (-5.5)
その他衣料品	2,628,735	2.5	-3.6 (-5.3)
衣 料 品	32,827,863	30.7	-8.3 (-9.5)
身のまわり品	13,905,204	13.0	-6.1 (-8.5)
化粧品	5,894,323	5.5	-6.1 (-6.6)
美術・宝飾・貴金属	5,167,858	4.8	-1.4 (-3.0)
その他雑貨	6,612,745	6.2	-13.0 (-13.5)
雑 貨	17,674,926	16.5	-7.6 (-8.3)
家 具	1,906,717	1.8	-9.2 (-10.0)
家 電	578,507	0.5	-5.4 (-5.4)
その他家庭用品	4,037,716	3.8	-4.6 (-5.5)
家 庭 用 品	6,522,940	6.1	-6.0 (-6.9)
生 鮮 食 品	4,074,240	3.8	-1.5 (-2.7)
菓 子	9,368,878	8.7	-4.6 (-5.8)
惣 菜	5,452,094	5.1	-5.7 (-6.8)
その他食料品	8,874,516	8.3	-4.7 (-6.1)
食 料 品	27,769,728	25.9	-4.4 (-5.7)
食 堂 喫 茶	2,882,427	2.7	-8.6 (-10.1)
サ ー ビ ス	2,071,041	1.9	-3.5 (-3.6)
そ の 他	3,424,188	3.2	-1.5 (-1.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)
※

商 品 券	5,546,554 千円	157.2 (150.1)
従 業 員 数	20,272 人	7.9
店 舗 面 積	946,123 m ²	-4.0
営 業 日 数	27.9 日	前年 27.9 日

II. 商品別の動き

主要5品目は、17か月連続で全品目がマイナスとなった。しかし、5品目の中で衣料品、家庭用品、食料品が先月より改善する動きとなり、身のまわり品、雑貨が落とす結果となった。また、紳士服・洋品、婦人服・洋品、子供服・洋品、その他衣料品、家電、その他家庭用品、生鮮食品、菓子、惣菜が先月より改善した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-6.5	—	24か月連続マイナス
紳士服・洋品	-7.8	-0.5	23か月連続マイナス
婦人服・洋品	-9.4	-1.9	19か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.3	-0.1	18か月連続マイナス
その他衣料品	-3.6	-0.1	22か月連続マイナス
衣料品	-8.3	-2.6	19か月連続マイナス
身のまわり品	-6.1	-0.8	23か月連続マイナス
化粧品	-6.1	-0.3	15か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-1.4	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-13.0	-0.9	21か月連続マイナス*
雑貨	-7.6	-1.3	22か月連続マイナス
家具	-9.2	-0.2	23か月連続マイナス
家電	-5.4	0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-4.6	-0.2	2か月連続マイナス
家庭用品	-6.0	-0.4	21か月連続マイナス
生鮮食品	-1.5	-0.1	8か月連続マイナス*
菓子	-4.6	-0.4	13か月連続マイナス*
惣菜	-5.7	-0.3	23か月連続マイナス*
その他食料品	-4.7	-0.4	5か月連続マイナス*
食料品	-4.4	-1.1	17か月連続マイナス
食堂喫茶	-8.6	-0.2	16か月連続マイナス
サービス	-3.5	-0.1	16か月ぶりマイナス
その他	-1.5	0.0	2か月連続マイナス
商品券	157.2	3.0	7か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>